



いから顔觸れが決つてゐない。従つて面白い玩具が見出されるのは多く池の端の露肆に於てゐる。幾度も淺草公園に遊んで其の度に見附けて來た玩具が大部溜つた。今夜は一つ玩具箱を打撒げで見やう、先づ面白いのは、

▲赤い鳥 である。これは綿と紙で拵へた小さい鳥であるが脚に螺旋狀の針金が附着してゐるので板の上のせて少し傾斜させてやると鳥はブルブル顫へながら動いて行く。簡単な玩具で一個は僅かに一錢であるが板の上のせて歩かせる時興味は却々盡きないのである。

▲とんだりはねたり この玩具は昔からあるので淺草の名物ともいふべきである。大體の構造を説明すると先づ竹の臺の上に土製の兔或は狸が膠着してゐる。臺の裏の中央には糸を以て竹の棒の一端を括つてある、そして其棒の他の一端は臺の前方に來てゐる。扱てこの棒を引張つて來て臺の後端の松脂に膠着させて置いて其儘手を放すのであ

る、棒は糸の張力で直き刃ね返へされる、そしてその拍子に兔なり狸なりは臺諸共に飛上るのである。臺が飛上る時被物が除れて人形が現れる様に趣向を凝らしたのもある。中にも趣味多いのは助六である。ピヨコンと刃ねた拍子に唐傘が取れてチンと濟した助六が現れるなぞも却々愛嬌である。被物の無いのは二錢、あるのは三錢である。

昔徳川三代將軍が或時淺草へお微行で遊びに出になつた時、この玩具がお目に止つて非常に御意に適うたと見え悉くお買上げになり、それを賣つてゐた爺さんは雷門の附近に店を開くだけの地面を賜つたといふ事である。

尙この玩具のことは寺門靜軒の江戸繁昌記にも出でゐるから参考の爲め抜幸して見やう。

雷門側有一隻賣紙備備人體猿面蒙笠坐之于竹片上竹裏面絲其半又以細片竹自前端啣其絲反此膠于後端以置蒲席上乃說白一閭伍中左次平爺巡四國爲援狙說了拍手備覆笠飛嗚呼竹片離膠之機得

心應手輪扇所謂口不能言有數存焉於其間者歟今  
則見其物而不見其人蓋不能繼也

▲ひよこり／＼の俵 これも前の「飛んだり刳ね  
たり」と同じく淺草で昔から賣つてゐた玩具であ  
る。薊玉位の張子の俵を拵へて黄色く塗りチヨイ  
チヨイと細い線を墨で入れて俵の様に見せてあ  
る。そして一隅に土の錘おもりが入れてあるので臺の上  
へのせて手で加減をすると俵はヒヨコリ／＼と縦  
に轉つて行く。

▲水中花 これも昔からよく縁日などで賣られて  
ゐた玩具の一種である。櫻の花や都鳥や屋形船や  
徳利などの形を切抜いた紙を小楊子位の棒に巻い  
てある。小皿か何かの中へ水を張つて置いてそれ  
を靜かに水の面に浮べると徐々まに解ほれて行く。  
水面に浮べて何になるかと凝視ぎやうししてゐる内がおな  
ぐさみである。二十本位入つた袋が二錢位。

▲ごん／＼獨樂 胴も心棒も皆竹で拵へた獨樂で  
ある。胴は空虚うつろで其外面には細長い孔が一つ開け

てある。心棒に紐を巻きヘラの小孔にその紐の端  
を通して紐を扱とげば獨樂は唸りを生じて盛んに廻  
轉する、そして廻つてる間は非常に長い。英國の  
Humming top と同一趣向である。これは一個五  
錢位である。

▲自轉車の綱渡り 一條の綱を張つて置いて鐵葉  
製の自轉車乗をその上にのせ綱の一端を揺り動す  
と自轉車乗は前進したり後退したりする、併し自  
轉車の中央からは二本の鐵條が垂下しゐて其端に  
一個の錘がつけあるので決して脱線の憂ひはな  
い。自轉車乗には灯を入れた小さな提灯を持たせ  
てあるが一寸思ひ付である。自轉車乗と同一趣向  
で飛行機や飛行船なども出來てゐた。

## 大島の女と子供

田 中 生

大島の旅は樂しございました。霧に包まれた寂  
寞ぼくの森に迷ひ入つては涙ぐまるゝ様な露の滴たりに